

2011年度 学校評価報告書 (京都聖母学院小学校)

| | |
|------|---|
| 学校目標 | 建学の精神を基盤にした教育を進める中で、自ら主体的に考えて行動できる子ども、自らの行為に責任を持つ子ども、他者の幸せのために働く子どもを育成する。 |
|------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1. カトリック精神に基づいた心の教育の充実 2. 授業規律の確立とわかる授業の創造 3. 保護者・地域に開かれた学校づくり |
|------|--|

| 学 校 自 己 評 価 | | | |
|-------------|---------------------|---|--|
| 目 標 | | 評 価 | |
| 番号 | 重点目標 | 具体的方策 | 取組の成果 |
| 1 | カトリック精神に基づいた心の教育の充実 | ①『職員研修の充実』により、学校生活の中で子どもたちの自己肯定感を育めるような職員集団をつくる。 ②『褒める教育の充実』により、互いに認め合い、高め合う仲間を意識した学年・学級集団をつくる。 ③他人のために自分の時間を使うことの尊さを折に触れて話すことで、『ボランティア精神』を涵養する。 | ①校内研究部が中心となった研究だけでなく、管理職が教区司祭を講師に招き、職員に対して宗教研修を実施することにより、職員の意識が高まった。 ②朝礼時に、それぞれの分野で顕著な活躍をした児童を表彰し、学年やクラスでも『友達の良いところ』を見つけて発表させることで、クラスや学年を越えた意識付けができた。 ③ルワンダレスキュー隊や高学年の委員会活動など、見えないところでの活動に目を向けられる児童が増えた。 |
| 2 | 授業規律の確立とわかる授業の創造 | ①校内研究部を中心に公開・研究授業を実施。教員の授業スキルを高める。 ②校内初任者研修を計画的に実施。初任者だけでなく、研修内容を学内で周知・共有する。 ③講師を継続的に招聘、研究授業の指導を依頼する。 | ①研究協議会において、積極的な発言が増えてきたことから、教員の意識が高まったといえる。 ②研修会だけでなく、新任教員が担当する授業には指導教諭を配置して、常にフィードバックを受けた。 ③研究協議会では、授業における具体的な示唆がもらえるだけでなく、学級経営的な側面からも助言があるので、教員の意識向上とスキルアップにつながった。 |
| 3 | 保護者・地域に開かれた学校づくり | ①学校だよりを定期的に発行。学校前の直達橋通りの掲示板にも拡大したものを掲載して、学校の取り組みを知っていただく。 ②ホームページでも、学校の様子を内外に知ってもらうために、各行事ごとの担当者や担当学年が定期的に更新作業を行う。 ③広域避難場所として、災害時に機能できるような備蓄品や必要な設備を導入する。 | ①学校説明会においても、資料として学校だよりを同封して、普段の様子を伝えられるようにした。 ②ホームページの更新作業においては、管理職から担当学年に更新を依頼する前から、自主的に原稿や写真を準備することが多くなった。 ③簡易食料と飲料水を児童人数分を確保することにより、教員や保護者の意識化につなげることができた。 |

| 学 校 関 係 者 評 価 |
|---|
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 以下の三つの観点から評価を行った。 ①今年度の『学校評価』のあり方は適切であったか。 ②今年度の学級・学年・学校の取り組みは、子どもたちや保護者の願いにそったものであったか。 ③ 保護者学級委員としての活動について 【評価の在り方について】 ・質問の項目は概ね適切だったか。 ・アンケート実施時期をもう少し早めてもよいのではないか。 ・今年度から保護者と同じ項目で教員にもアンケートを実施したことで、よく見えてきたことがあった。 ・児童へのアンケートも実施してはどうか。 【取組の成果と課題】 ・今年度の学級・学年・学校の取り組みは、子どもたちや保護者の願いに沿っていた。 ・学級通信の情報と学校だよりの情報を共有することは必要。 ・4年生で実施した「2分の1成人式」の取組はよかった。 ・「英語」「宗教」の授業を充実してほしい。 ・「挨拶」の指導に力を入れていることがよく伝わった。 ・土曜チャレンジなど、土曜活用について検討してほしい。 ・「警報」の発令と緊急下校の基準について判断が難しい。 |